

秋から冬のかぜ

RSが流行中 インフルエンザは予防接種を



先生のご紹介

大坪修介

大坪子どもクリニック 院長

PROFILE

熊本大学卒。卒業後鹿児島大学小児科入局。小児科・小児神経専門医。医学博士。鹿児島大学医学部臨床教授。一人ひとりを大切に、誠意をもった診療を心がけています。

日に日に寒くなり咳、鼻汁の患者さんが増えてきました。気になる秋から冬のかぜウイルスはライノ、コロナ、RS、パラインフルエンザ、アデノ、そしてインフルエンザなどで、それぞれにたくさんの方がいます。子ども達にとってはほとんど初めて出会うウイルスですが、りっぱに戦って、抗体をつくって欲しいです。

■新型コロナウイルス

一般のコロナウイルスは主に冬流行します。昨年流行を繰り返して、私たちの生活を悩ましていた新型コロナウイルスはどうか、誰も予測がつかえません。これまでの動きをみると日本では、きれいな正規曲線を描いて流行を繰り返して、それを見るとまた大きな流行が年末にかけて来そうです。ただ、ワクチンによって重症者が減り、効果的な治療も期待できるので、今後は、PCR陽性（感染者）を指標にするのではなく、実際の医療逼迫の程度を目安に考えていけばよいのではと思います。助かる命を助けるという本来の目的に進進できればと思います。

が予防接種を受け終わった現在、子ども達の日常生活を取り戻し、過度の行事・行動の制限をさせないように気をつけてあげたいです。ただ、まれとはいえ、流行規模が膨大になると子どもでも中・重症が出てくるでしょう。小児医療を逼迫させないように、ある程度の感染対策は子どもでも続ける必要があると思います。特に1歳以下のお子さんは注意して診療していきたいと思っています。

■RSウイルス感染症

このウイルスは、1歳までに70%、2歳までにほぼ100%の子どもの感染率と言われています。人生を通じて何回も感染する、感染するたびに軽くなっていく、そんなウイルスです。

現在これが流行しています。症状としては、鼻汁、鼻閉がひどく、時に発熱を伴ってゼーゼーする。特に乳児は重くなると呼吸困難になって、入院しなければいけないということも多く、子どもにとっては厄介なウイルスです。RSの検査は外来では乳児にしか保険適応になりませんが、新型コロナが流行りだした去年からは2、3才でも結構、症状が長引く方が出てきて、園でも神経質になってきているようです。私たちはしっかり鼻吸いをするように指導しています。入浴後や、蒸したタオルで鼻汁を少しふやかしてから吸ってあげるといいようです。

■インフルエンザ

ただ、ほとんどの子どもがかかるというよりは、すごく軽く済んでいる人もたくさんいます。ウイルスは長く排泄されるので予防自体は難しく、うつらないようになるまで休んでくださいというのは無理があります。こういう病気があるということを知りながら保育をすることが、とても大事だろうと思います。ワクチンの開発が待たれるところです。

昨年の流行はほとんどありませんでした。コロナ対策のおかげでしょう。新型コロナウイルスと違い、インフルエンザは子どもをターゲットにしますので、今年も来年も、ずっと流行して欲しいのですが、インフルエンザをなくすることはできませんので、いつかはやってきます。流行がなかった年が繰り返されると、社会全体がインフルエンザに対して抵抗力が落ちていき、流行しやすくなる可能性が言われています。個人的にも抵抗力を維持するために、予防接種はしておいた方がよいと思われる。かかっても、重症化しないことが大事です。

■ノロウイルス・ロタウイルス

胃腸炎（嘔吐・下痢）を起こすおなかの風邪です。例年11月頃から流行が始まるノロウイルスは突然の繰り返し嘔吐が始まり、発熱、下痢を伴ったりします。点滴を要する子どもまれではあ

りません。嘔吐は重篤な病気の初期症状であることがあり、他の疾患との鑑別に気を遣います。ロタウイルスはもう少し寒くなってから、白色の大量の下痢をおこし、同じく脱水を起こしやすいです。こちらはワクチンをほとんどの方が済ませており、軽症で済むことが多くなりました。どちらも感染しやすいため、吐物・便には慎重な取り扱いが大切です。



<https://www.otsubo.org>

大坪子どもクリニック 日・祝日 休診

時	朝	昼	夕	〒890-0034
月	○	○	○	鹿児島市田上2-15-11
火	○	○	○	TEL.099-286-6121
水	○	○	○	FAX.099-286-6127
木	○	○	○	※日曜・祝日休診
金	○	○	○	
土	○	○	○	

